



日経ビジネスに見る「経済先読み・解説」 173号

経営コンサルタント 栗田 剛志 13.1.7

発行元：m9コンサルティング

<http://www.m9consulting.biz>

このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2013年1月7日号 no.1673
『異色企業家だけに聞いた2013年大胆予測』」より

【ビジネスチャンスは人がいる限りなくなるらない】

新年明けましておめでとうございます。
読んでくださる皆様に、少しでも役に立てるような情報を発信していきます。
今年もよろしくお願い申し上げます。

2013年がスタートしました。証券市場の大発会では、日経平均株価が大きく上昇し、東日本大震災の前の水準にまで回復しました。

築地市場で行われた初セリでは、青森県大間産のクロマグロに1億5540万円の値がつかしました。

幸先の良いスタートは、2013年に対するみんなの期待感なのかもしれません。

果たして、今年はどんな年になるのでしょうか。今週の特集は、異色といえる企業家の2013年に対する大胆予想です。

「玉子屋」は、東京・丸の内など都心を中心に営業する仕出し弁当屋さんです。

丸の内界隈のランチ事情を知り尽くしているこの会社の社長さんは、2013年は一段と厳しい年になると予想しています。

法人向けの弁当業は、景気が落ち込むと配布数が増える傾向にあります。不況によって会社員のお小遣いが減り、「1000円払って外食するよりも、オフィスで430円の玉子屋の弁当を食べよう」ということになるからです。

ところが、1975年の創業以来、景気の影響を最小限に押さえ、事業を順調に拡大してきた玉子屋も、昨年の夏以降調子がよくないようです。

原因のひとつとして、本社機能の移転などでは説明できないほど、丸の内から人が減っていることが挙げられます。

団塊世代の大量退職が続いているうえ、補充は限定的であることと、報道されない隠れたリストラも多数実施されているようです。空洞化は、日本の中心でも起きているのです。

もうひとつの原因は、丸の内にまで広がる貧困化です。

牛丼やファストフードの数百円でランチを済ませてしまう人が増えています。賞味期限が切れて翌朝半額で売っているおにぎりを近所のスーパーで購入し、昼食代わりにする人もいるとのこと。

昨年末に厚生労働省から発表された毎月勤労統計調査によると、基本給や残業代、特別給与を合わせた日本の現金給与総額は昨年11月まで3ヶ月連続で減少しています。比較所得が高い丸の内や千代田区の間で見られる減少は、不況の深刻さを物語っています。

日本最大のカレーチェーン「カレーハウスCoCo壱番屋」の創業者である宗次氏は、さらに厳しいことを言っています。

「事業家にとって2013年は最後のチャンスです。多くの人は今が一番大変と思っているようですが、それは大きな誤解。これからもっと大変になる。2013年は、生まれ変わる最後の年ということになるでしょう」

経済構造を見ても、優れた人しか勝ち残れない時代が来るとのことです。何かひとつくらいは、誰よりもがんばるぞというものがないと、生き残れません。

宗次氏の場合、早起きと掃除だけは負けないという気持ちでやってきたとのこと。

午前4時に起きて、店に行き掃除をすることを、会社を始めた30年以上前から行っています。社長が誰よりも早く会社に来て、誰よりも一心不乱に掃除をしていたら、社員も働くようになるそうです。

社長が誰よりもハードワーカーな会社は強いということが宗次氏の持論なのですが、世の中を見回すとそういう経営者は少ないのではないかとされています。宗次氏はこう言います。

「重役出勤して、現場には顔を出さず、会議で声だけ張り上げる。社長が誰よりもハードワーカーとて、自分が一番楽しとる。現場主義どころか、社長室で数字しか見ていない。時間をかけて現場を見てないから、思いつきでしか指示を出せない。当然、道を誤ります」

確かに、動かない経営者のもとで会社が良い方向に変化することは考えられません。早起きして現場に出るということは、難しいことではありません。やってみる価値はあります。

最後は、堀場製作所最高顧問の堀場雅夫氏です。

悲観論が多い中で、この方だけは「大丈夫だ」と言いきっています。

「全く日本人というのは能力を過小評価していて、いつも悲観論ばかり。楽観論者より悲観論者の方が偉いのかと思われているのかな。うちの従業員の半分は欧米人。いろいろな国の連中を見たり話をしたりしているんですが、やっぱり日本人の潜在的な能力がすごく高いと実感する」

この方にこう言われると、そうなのかなと本気で思ってしまう。

三度の飯が食えるどころか、医者から肉を食べてはいけない、酒を飲んではいけないといわれている以上、不景気などと言ってはいけないと釘をさしています。

極めつけは、この言葉です。

「いいですか。ビジネスチャンスというのは人間がいる限りなくなるらない」

日本人は持っている力を十二分に発揮できていないということを言っているのでしょう。及び腰にならず、自信を持って新しいチャンスに挑んでいけば道は拓けるのです。

私が思う中小・小規模企業にとっての2013年は、「事業の軸足を変える、あるいは軸を増やす最後のチャンス」になるのではないかと思います。

もはや縮小しか見込めない事業は、やり方を変えなければいけません。思い切ってやめてしまうのもひとつの手です。一方で、次の会社の柱となる新しい事業を立ち上げなければなりません。

それができる最後のチャンスとなる年なのではないかと感じています。

国や自治体が、それをするための中小・小規模企業の支援策を準備しています。上手に活用してもらいたいと思っています。